

(公社)日本地すべり学会

東北支部だより

vol.
34

東北支部事務局

〒980-0012
仙台市青葉区錦町1丁目7番25号
株式会社復建技術コンサルタント内
担当:大澤、甲斐 ☎022-262-1234



ご挨拶

東北支部長

森口 周二

(東北大学

災害科学国際研究所准教授)

支部会員の皆様、オブザーバーならびに関係者の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。支部だよりの発刊に際し、一言ご挨拶を申し上げます。

地すべり学会東北支部は発足から今年で38年目を迎えました。今年の6月より、この歴史ある東北支部の支部長を拝命し、その重責に身の引き締まる思いです。皆様のご協力やご指導を賜りながら、これまでの諸先輩方が作り上げてこられた活動や雰囲気をさらに発展させ、次の世代に引き継いでまいりたいと考えております。

2019年の12月頃から騒ぎが始まった新型コロナウイルス感染症は、2020年3月11日に世界保健機関(WHO)がパンデミック(世界的流行)と表明し、世界中で爆発的な流行となりましたが、今年の5月には日本でも「5類感染症」に指定され、社会活動に関する多くの制約がなくなりました。これまでのコロナ禍では、東北支部においても総会や現地検討会がオンラインでの開催となるなど、対面でのコミュニケーションが十分にとれない中での難しい状況でありましたが、大河原前支部長をはじめとする皆様のご尽力により、スムーズな学会活動の運営がなされてきました。また、その努力のおかげで、オンラインでの情報発信が定着し、学会活動の幅を広げる結果となりました。今年に実施したいくつかのイベントでは、対面を主体としながらもオンラインでもその様子を発信し、多くの方々にご参加頂くことができました。今後も、対面によるコミュニケーションの利点を重要視しながら、オンライン

ツールをうまく活用して参りたいと思っております。

次に、今年の支部活動を簡単にご紹介します。複数回にわたり実施した若手講習会では、東北支部結成35周年記念誌である「斜面防災危険度評価ガイドブック-斜面と地すべりの読み解き方-」をテキストとした地形判読に関する講習を実施しました。各組織から多くの若手技術者にご参加を頂くことができました。7月に実施した災害調査報告会では、2022年12月31日に発生した山形県鶴岡市西目地区の崩壊の現地調査の結果が報告されました。八木浩司先生(山形大学)を団長とする調査団の皆様には大変なご尽力を頂き、山形県や国土交通省東北地方整備局の関係者の方々にも多くのご協力を頂きました。また、10月には、岩手・宮城内陸地震によって発生した荒砥沢地すべりを対象として現地検討会を実施しました。この際には、栗駒山麓ジオパークビジターセンターのご協力を賜り、地すべり内部に入って活発な議論が実現しました。このような活発な活動を支えて頂いている支部幹事および関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。

次年度の日本地すべり学会の研究発表会および現地見学会についてもお伝えしておきたいと思えます。次年度は仙台での開催が予定(9月17~19日の期間で仙台国際センターでの開催を予定)されており、東北支部がその運営を担います。既に実行委員会が設置されており、着々と準備が進められている状況です。当日には、多くの方々にご参加頂き、支部一丸となりこのイベントを盛大なものとしたいと思っております。ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、支部会員ならびに関係者の皆様におかれましては、東北支部の活動に多大なご支援を頂いており、ありがとうございます。今後、支部活動をさらに盛り上げていくため、引き続き、ご協力をお願い致します。

2024年度主な行事予定

■支部開催事業

- * 東北支部・総会・講演会
(2024年5月上旬予定、仙台市)
- * 講演会及び研修会
(開催は随時ホームページで案内)

■本部開催事業

- * (公社)日本地すべり学会社員総会・シンポジウム
(6月予定、東京都)
- * 2024年度(公社)日本地すべり学会
第63回研究発表会及び現地見学会
(9月17日~20日、宮城県仙台市「仙台国際センター」ほか)
- * 最近の土砂災害報告会
(開催は随時ホームページで案内)

令和5年7月14日～16日の豪雨に伴う 秋田県の土砂災害



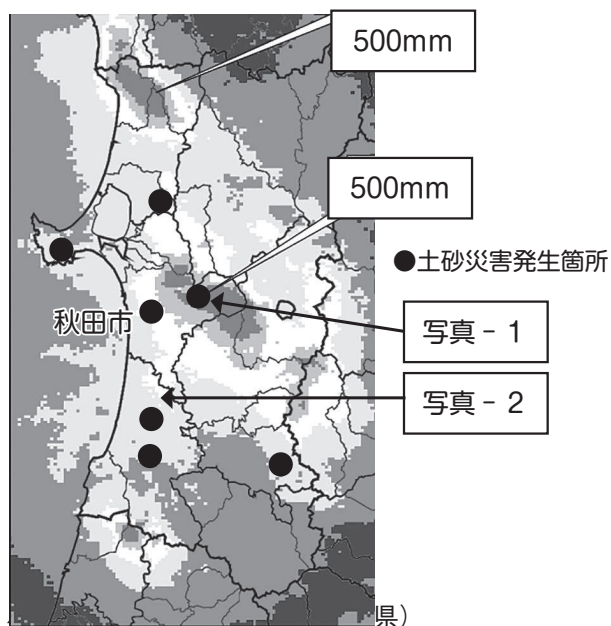
奥山ボーリング株式会社 藤井 登

1. 秋田県の気象情報

梅雨前線が東北部に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、令和5年7月14日から16日にかけて県内の広い範囲に大雨を降らせた。また、白神山地や太平山地付近では、激しい雨や非常に激しい雨となる所があった。総降水量は、多い所で400mmを超え、解析雨量では局地的に約500mmを記録している。藤里、男鹿、秋田、秋田市岩見三内、秋田市仁別、角館の気象観測所における72時間降水量は、観測史上1位を更新した。

2. 被災の概要

土砂災害が発生した箇所を図1 解析雨量図(7月14日0:00～16日24:00)に示す。



土砂災害は、概ね秋田県全域で発生しているが、表層地質で卓越する新第三系中新統～鮮新統の堆積岩類が分布する地域に集中している。このうち、岩見ダム上流で発生した大規模な斜面崩壊、県道のトンネル坑口における切土のり面崩壊を紹介する。

2.1 岩見ダム上流の斜面崩壊(写真.1)

被災箇所は、秋田県内で太平山地に局部的に分布する花崗岩分布地域である。崩壊規模は、幅約150m、長さ約180m、比高差約100mで、花崗岩の強風化マ

サ土で発生している。道路を約140mにわたり埋塞し、現在も通行止めとなっている。なお、上流側に堆積した崩壊土砂の高さから、当崩壊により天然ダムが形成されたことが推察される。



▲写真1 岩見ダム上流の斜面崩壊

2.2 県道トンネル坑口の切土のり面崩壊(写真.2)

崩壊規模は、幅約50m、長さ約50m、比高差約24m。地質は新第三系鮮新統の天徳寺層のシルト岩が基盤を成し、その上位に崖錐層が分布する。崩壊は崖錐層で発生し、滑落崖からは湧水が確認されている。崩壊した土砂が道路を埋塞したため、約1ヶ月間通行止めとなった。



▲写真2 県道トンネル坑口の切土のり面崩壊

3. 終わりに

秋田県では、2017年、2022年に豪雨災害が発生している。特に2017年の豪雨では多くの河川が氾濫し、国道、高速道路が一次的に通行止めとなった。先人の言葉に「災害は忘れた頃にやってくる」とあるが、近年は、異常気象に伴う土砂災害の多発化が想定される。

土砂災害防止に関わる技術者として国民の安全と安心を確保するため、今後も土砂災害から身を守る啓蒙活動、危険箇所の抽出、事前の対応、発生後の迅速な対応に向けた日々の研鑽に努めていきたいものである。

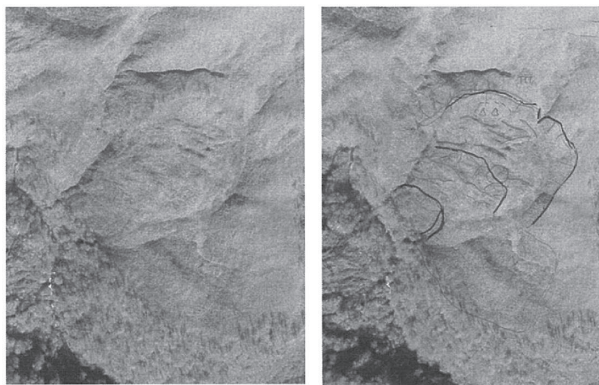
2023年度 若手講習会に参加して



日本工営株式会社 小田 龍平

2023年度に3回開催された若手講習会に参加しました。第1回から第3回にかけて、地すべりの地形判読、判読結果を基にした地すべりの危険度評価、GISソフトウェア(QGIS)の活用方法等、多彩な内容について学習することができました。

第1回講習会では、空中写真を用いた地すべりの地形判読について学びました。実際に、空中写真を使用して地形判読を行ってみると、対象地域の地形の高低や形状、地形配置等の特徴を俯瞰的に確認できることを実感し、地すべり地形のような異常地形を抽出する上で有効な手法であることを再確認しました。空中写真判読で対象地域の地形等の特徴を俯瞰した上で、航空レーザー測量結果から作られた地形図を活用することで、より深く対象地域を理解することができると感じました。



▲図1 空中写真を用いた地すべり判読結果

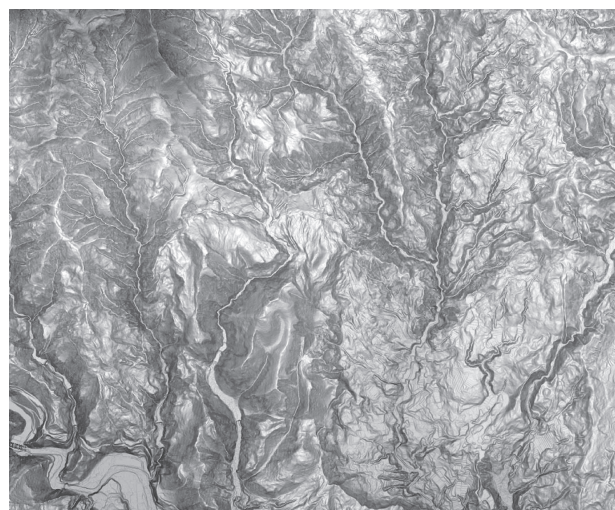
第2回講習会では、地形判読結果を基にした地すべりのAHPによる危険度評価について学びました。地形判読から、地すべり地形の新鮮さや形態、付近の地形との関係性を調べ、それらを基に各項目の危険度スコアをつけ、危険度評価を実施しました。さらに、参加者4~5名のグループで危険度評価を共有して議論し、すり合わせを行って発表しました。危険度評価のすり合わせを行ってみると、各項目の危険度スコアがばらついていることが多く、判読者の主観で大きく左右されることを実感しました。また、判読結果を議論することで、見落としていた判読のポイントや地形の見方に気付くことも多く、他者との議論の重要性を認識しました。

Bグループ

スプレッド写真と 地すべり地図		レイアウト		詳細マップとスト		不安定化箇所		AMP	
【グループ適用用カルタ】								2017	
a 13 (b) d 20 (b) 13 (c) e 10 (a) e 20 (a) c 5 (a) f 5 (b)								60	
 	 	地すべり 式	地すべり 式	高い		低い		13	10-15 10
				20 地すべり 13 地すべり 8 地すべり 地すべり、地すべり 地すべり、地すべり		地すべり、地すべり 地すべり、地すべり			
 	 	地すべり 式	地すべり 式	高い		低い		13	10-15 10
				20 地すべり 13 地すべり 8 地すべり 地すべり、地すべり 地すべり、地すべり		地すべり、地すべり 地すべり、地すべり			
 	 	地すべり 式	地すべり 式	高い		低い		13	10-15 10
				20 地すべり 13 地すべり 8 地すべり 地すべり、地すべり 地すべり、地すべり		地すべり、地すべり 地すべり、地すべり			
 	 	地すべり 式	地すべり 式	高い		低い		13	10-15 10
				20 地すべり 13 地すべり 8 地すべり 地すべり、地すべり 地すべり、地すべり		地すべり、地すべり 地すべり、地すべり			

▲図2 地すべり危険度評価(グループワーク後)

第3回講習会では、QGISを用いて地形データから様々な解析図が作成できることを学びました。図の作成方法を学習する中で、何を目的として何を調べるために作図するのかを意識し、適切なデータ処理を行うことが重要であると感じました。



▲図3 QGISで作成した標高段彩図

今後は、地表で確認される地すべりの形態とすべり面の地下形状および地質構造の一般的な対応を学び、加えて、地形データを用いた差分解析等の地形解析方法について学んでいきたいと感じました。また、今回、会社の垣根を超えて多くの若手技術者と交流を持つことができ、人脈を広げることができました。今後の若手研修会等にも積極的に参加し、多くの方との議論を通して、成長していきたいと考えています。

2024年度 研究発表会(宮城大会)に向けて



宮城大会幹事長

瀬野 孝浩

(株式会社新東京ジオ・システム)

2023年3月初旬、前東北支部長の大河原先生(岩手大学)から、突然の連絡があった。「どうやら2024年の研究発表会の開催が東北支部担当になるらしい…。」「えっ?」「3月10日の本部理事会で決定したのちに支部長へ要請が来るらしい。」東北支部管内では、過去に宮城、山形、秋田、福島各県で合計8回研究発表会を開催しており、直近では8年前の2015年8月に山形市で開催した以来である。

この一報を受けて、急遽臨時役員会を招集し、開催受諾の方向で進めることを決定したが、あまりに突然の話で困惑したことを記憶している。会議では開催県をどこにするか、現地見学会の適地はあるか、交通や宿泊は確保できるかについて議論し、開催地は宮城県仙台市とすることを決定した。また、2023年支部総会で支部長交代の決議を予定していたことから、次期支部長の森口先生(東北大学)への状況説明と了承を得る必要があったが、快くお引き受けいただけた。

年度が替わった4月6日に事前打合せとして会場候補である「仙台国際センター」へ打合せと会場視察に伺ったところ、またもや思いもよらぬ事実を突きつけられた。いわく、「国際センターでは開催の2年～3年目から大型催事受付を行っており、ご希望の2024年9月～10月は既に予約で一杯です。」一同「!?」これはまずい。その日を境に市内の会場探しを手分けして行い、何とかホテルでの開催予約が取れそうになったその時、国際センターより「9月17日～20日のキャンセルが出ましたので対応可能です。」との連絡があった。森口支部長に連絡し、直ちに会場を国際センターに決定し、会場使用計画やかかる費用の算定と収支計画の策定に着手した。

支部総会では大会の開催概要と大まかな準備スケジュールの説明を経て、開催について満場の賛成で議決された。まずは大会準備会を組織し、大会の方向性を検討したのちに、実行委員会と実働部隊である幹事会を組織し、開催計画を練ることになった。ここで問題となったのが、前回大会を経験した支部幹事が数名しかおらず、どのように進めるか手探り状態の不安な出だしであった。

準備会での検討により、第63回研究発表会及び現地見学会の日程は以下のように決定された。

■メイン会場：仙台国際センター展示棟

■意見交換会：ホテルメトロポリタン仙台

・9月17日(火)：市民向け県民講演会

・9月18日(水)：開会式、表彰式、特別講演会
研究発表会、新技術展示、ポスターセッション、意見交換会

・9月19日(木)：研究発表会、新技術展示、
ポスターセッション、閉会式

・9月20日(金)：現地見学会 3コース

宮城県を含む東北地方ではこれまで幾度となく自然災害に見舞われ、その都度、復旧と復興を果たしてきている。特に宮城県では2008年岩手宮城内陸地震と2011年東日本大震災などの未曾有の災害に加えて、2019年には丸森町を中心とした豪雨災害なども複数回経験している。これを踏まえて宮城大会では「災害の記憶や資料の伝承、復旧復興」をテーマの一つとして、県民講演会や現地見学会の計画を進めているところである。

現地見学会では今年度から地すべり移動体の内部へ立入が許可された荒砥沢地すべりと、災害を未来に伝えるための教育と研究、防災、観光などに活用した地域づくりを目指した「栗駒山麓ジオパークビジターセンター」を見学する計画とした。また、東日本大震災の震災語り部から改めて災害を学び直すとともに震災遺構や海岸防災林などの見学を計画するほか、丸森町では災害復旧状況を見学する予定である。

11月10日には第1回実行委員会が開催され、大会運営の実施計画(案)の審議を経て承認され、引き続いて幹事会が開催され、大会に向けていよいよ本格的に始動することになった。今年度の岐阜大会ではオンラインも含め600名を超す参加者があったことが報告され、実行委員と幹事一同でこれに匹敵する参加者が集うことを目標に、各部会において行事の具体計画と運営方針の検討を進めることを確認した。

宮城大会開催まで272日。関係者一同、実りのある大会とすべく精一杯頑張る所存ですので、支部会員各位の絶大なご協力とご支援をお願いして、大会に向けてのキックオフとしたいと思います。

2023年度 支部総会議事内容

今年度の支部総会是对面開催としたが、コロナウイルス対策として会場参加者を制限したうえで、会員に議案書を送付し、委任状による書面決議を併用したハイブリッド会議として実施した。

○開催場所：せんだいメディアテーク7F スタジオシアター

○開催日時：2023年5月12日(金) 14:00~15:00

○総会進行：瀬野幹事長 議事進行：大河原支部長

○参加者：リモート出席14名、会場出席44名(正会員) 委任状44名 合計102名

*東北支部運営規則第14条により、定足数83名(会員数183名の1/2以上)を満たし総会は成立した。

第1号議案 2022年度事業報告

■総会：2022年5月13日

(シンポジウム・意見交換会は中止とした)

○総会：委任状による議決とし、役員及び事務局によるリモート開催とした。

*委任状92名、リモート出席8名、
対面出席8名 計108名 (定足数83名)

■役員会、運営委員会、幹事会、委員会

○役員会：

- ・2023年1月30日(8名)：支部人事、2023年度事業計画及び鶴岡市災害に関する協議
- ・2023年3月10日(10名)：2024年度全国大会に関する協議ほか

○幹事会

- ・2022年7月1日(15名)：事業計画についての協議
- ・2022年8月5日(8名)：地すべり現地検討会開催地の現地確認及び開催方法に関する協議
- ・2023年2月24日(6名)：支部会員向け研修会の実施要領に関する協議
- ・2023年3月17日(31名)：2022年度事業・収支決算報告、2023年度事業計画及び予算(案)、2024年度全国大会開催に関する協議

○運営委員会

- ・2022年8月3日(21名)：事業計画及び予算実行及び支部体制についての協議
- ・2022年12月13日(18名)：事業実行状況及び2023年度事業計画についての協議
- ・2023年3月17日(31名)：2023年度総会議案書の審議、2024年度全国大会開催に関する協議

■講演会

- ・2022年7月22日
(対面参加14名、オンライン参加105名 計119名)
- ・基調講演 北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所 石丸 聡氏
「北海道の地すべり活動危険度評価と寒冷地特有の緩斜面周辺で発生する斜面崩壊について」
- ・山形大学名誉教授 八木浩司氏
「斜面防災危険度評価ガイドブック①」
- ・奥山ボーリング(株) 林一成氏
「斜面防災危険度評価ガイドブック②」

〈表彰〉

東北支部の活動にご尽力された山形大学名誉教授 八木浩司氏に「2022年度東北支部賞」を授与

■「斜面変動研究の次世代コロキウム」の開催：事業企画委員会

オンライン形式での委員会・分科会を開催した。

■東北支部地すべり現地検討会：

2022年10月7日 48名

山形県最上郡大蔵村「柳淵地すべり」を対象に現地で開催した。

- ・テーマ「大規模地すべり地帯で発生した諸現象から地すべり機構を考える」
- ・工事施工中の現場視察と8班によるグループ討議及び発表、総合討論を実施した。

■災害調査派遣

令和4年8月豪雨災害における現地調査

- ・9月23日~24日に砂防学会東北支部と現地調査を山形県飯豊町で実施した(参加2名)。

■広報活動等

①支部だより第33号の発行(2022年12月20日)

印刷部数235部、発送部数230部

- ・支部ホームページの更新、情報発信、各種事業案内・参加募集、支部活動報告等の掲載など

②講師派遣

- ・「令和4年度地質調査研修」(2022年7月29日、秋田県地質調査業協会(秋田県と共催)主催)
奥山ボーリング(株) 藤井 登氏(支部会員)

■関連団体との連携・地域貢献

○「2021年青森県風間浦村の豪雨災害に関する合同調査団」への参画

○(一社)斜面防災対策技術協会

- ・地すべり防止工事士更新講習会講師
大河原正文支部長

- ・機関紙「山が動く」への投稿

宮城豊彦氏：ベトナムにおける斜面災害リスク軽減
関連調査企画の意味と困難性

森口周二氏：豪雨による土砂災害の予測・評価技術
西尾克人氏：令和4年8月豪雨に伴う山形県飯豊町

土砂災害の緊急調査団報告

第2号議案 2022年度収支決算報告及び会計監査報告

(収益)

(単位：円)

勘定科目			当期予算 b	当期決算 a	増減 a-b	備考
大科目	中科目	小科目				
支部収益			740,050	422,000	△ 318,050	
	事業収益		410,000	92,000	△ 318,000	
		シンポジウム収益	0	0	0	講演会対面WEBハイブリット開催
		現地検討会収益	160,000	92,000	△ 68,000	
		技術講習会収益	250,000	0	△ 250,000	実施見送り
		出版収益	0	0	0	
	協賛・寄付		330,000	330,000	0	33社
	雑収益		0	0	0	
	受取利息		50	0	△ 50	
	預り金		0	0	0	
本部仮払金			0	0	0	
当期収益合計 (A=支部収益+本部仮払金)			740,050	422,000	△ 318,050	

(費用)

(単位：円)

勘定科目			当期予算 b	当期決算 a	増減 a-b	備考
大科目	中科目	小科目				
支部費用			802,000	555,529	△ 246,471	
	事業費		579,000	331,063	△ 247,937	
		シンポジウム会費	46,000	125,100	79,100	
		現地検討会費用	212,000	9,953	△ 202,047	
		技術講習会費用	50,000	0	△ 50,000	実施見送り
		※その他事業活動	271,000	196,010	△ 74,990	主に支部だより印刷費
	管理費		223,000	224,466	1,466	
当期費用合計 (B)			802,000	555,529	△ 246,471	

当期収支差額 (C=A-B)	△ 61,950	△ 133,529	△ 71,579	
当期未収入金(E)	0	0	0	
前期未払金	0	0	0	
前期前払金	0	7,300	7,300	2023年度総会会場費
前期前払金(F)	0	0	0	
前期繰越額 (D)	1,230,286	1,230,286	0	
次期繰越額(D+C-E+F)	1,168,336	1,089,457	△ 78,879	

※各小科目の詳細については支部ホームページ「支部情報：議案書」に掲載しております。

会計監査報告

2022年度(公社)日本地すべり会東北支部会計監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

2023年4月3日

会計監事 橋本 修一
 会計監事 渋谷 保

第3号議案 2023年度事業計画

■支部総会：2023年5月12日(参加合計102名)

○支部総会是对面と委任状による書面決議を併用したハイブリッド会議として開催した。

○講演会：参加合計179名、このうちWeb101名(会員82名、非会員97名)

「土砂災害対策の現状と今後の課題」

国土交通省 東北地方整備局河川部長 板屋英治 氏
「個別要素法による土砂流動・

落石シミュレーションの不確実性の定量化」

東北大学災害科学国際研究所准教授 森口周二 氏

○意見交換会：ホテルグランテラス仙台南国町

■役員会、運営委員会、幹事会、委員会

○支部事業の企画立案、運営に関し随時開催し、実施状況のフォローアップを行う。

○2024年度第63回研究発表会及び現地検討会に向けた実行委員会、幹事会の立上げと開催

■「斜面変動研究ワーキング」：事業企画委員会

○若手会員の技術的交流及び育成の場として、広く支部会員に参加を呼びかけ会勢拡大に繋げる。

○中堅及び若手会員からの問題提起や事例発表などを題材にした勉強会としても開催する。

■講演会(シンポジウム)：事業企画委員会

○2023年5月12日(支部総会)、7月、11月に開催

○運営委員の先生からの基調講演、ワーキングの研究発表等の話題提供

■研修会：研修委員会

○主に会員向けとして「斜面防災危険度評価ガイドブック」の実践的活用をテーマに、若手地形解析者の育成を目的に複数回の開催を目指す。

○2023年4月27日、6月下旬及び11月に開催予定

■地すべり現地検討会の開催：巡検計画委員会

○場 所：宮城県栗原市「荒砥沢地すべり」を予定

○期 日：2021年10月上旬～中旬とし集合形式(1泊2日)で計画する。

■災害調査派遣：巡検計画委員会

○本部との連携や調査団の結成手順を整理し、他学会及び協会と連携して調査に参画する。

○2023年4月23日 山形県鶴岡市西目地区土砂災害に関する現地調査(参加16名、説明者5名)

■支部だより：広報委員会

○支部だより第34号の発刊及びホームページの更新及び情報発信

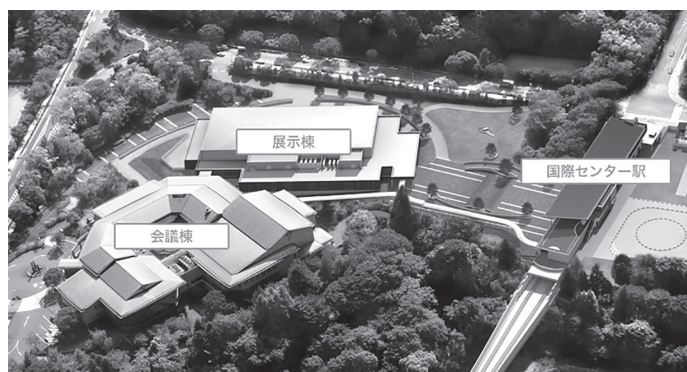
○アウトリーチ連絡会との連携を図りながら支部事業の宣伝活動として、学校や自治体の防災教育、技術研修会へ講師を派遣する。

○「地すべり調査・設計に関する技術講座」の開催立案を検討する。



▲総会開催状況 日時：2023年5月12日
場所：せんだいメディアフリースク

◆2024年(公社)日本地すべり学会第63回研究発表会及び現地検討会(お知らせ)



○期日 2024年9月17日～20日

○研究発表会 会場

仙台国際センター展示棟

仙台市青葉区青葉山無番地

<http://www.aobayama.jp>

○意見交換会 会場

ホテルメトロポリタン仙台

仙台市青葉区中央1丁目1-1

<https://sendai.metropolitan.jp>

第4号議案 2023年度収支予算案

(収益)

(単位：円)

勘 定 科 目			前期予算 b	当期予算 a	増 減 a－b	備 考
大科目	中科目	小科目				
支部収益			740,050	1,710,020	969,970	
	事業収益		410,000	1,050,000	640,000	
		シンポジウム収益	0	300,000	300,000	講演会対面WEB/ハイブリット開催
		現地検討会収益	160,000	630,000	470,000	現地開催
		技術講習会収益	250,000	120,000	△ 130,000	3 回開催予定
		出版収益	0	0	0	
	協賛・寄付		330,000	660,000	330,000	33社×2万
	雑収益		0	0	0	
	受取利息		50	20	△ 30	
	預り金		0	0	0	
本部仮払金			0	0	0	
当期収益合計（A=支部収益+本部仮払金）			740,050	1,710,020	969,970	

(費用)

(単位：円)

勘 定 科 目			前期予算 b	当期予算 a	増 減 a－b	備 考
大科目	中科目	小科目				
支部費用			802,000	1,852,000	1,050,000	
	事業費		579,000	1,504,000	925,000	
		シンポジウム会費	46,000	354,000	308,000	講演会対面WEBハイブリット開催
		現地検討会費用	212,000	732,000	520,000	現地開催
		技術講習会費用	50,000	105,000	55,000	3 回開催予定
		※その他事業活動	271,000	313,000	42,000	主に支部だより印刷費
	管理費		223,000	348,000	125,000	
当期費用合計 (B)			802,000	1,852,000	1,050,000	
当期収支差額 (C=A－B)			△ 61,950	△ 141,980	△ 80,030	
前期未収入金			0	0	0	
前期未払金			0	0	0	
当期前払金			0	0	0	
前期前払金			0	0	0	
前期繰越額 (D)			1,230,286	1,089,457	△ 140,829	
次期繰越額 (D＋C)			1,168,336	947,477	△ 220,859	

※各小科目の詳細については支部ホームページ「支部情報：議案書」に掲載しております。

学会活動報告

2023年度 講演会

事業企画委員長 渡辺 修

前年度支部長 大河原先生の推薦や新たに参画頂いた先生方からも御協力頂け、今年度は(本記事執筆時の11月時点までに)2回の講演会を開催できております。1回目は支部総会と合わせて開催、念願の対面形式(オンライン併用のハイブリッド)が実現しました。限られた人数ではありましたが、久々の意見交換会も大いに盛り上がりましたね。2回目の講演会では、2022年12月31日に山形県鶴岡市において発生した土砂災害に関する有志調査団からの報告会も合わせて行い、支部会員以外(全国の学会員)からも多くの参加を頂きました。話題提供者各位、参加者各位に改めて御礼申し上げます。

【第1回目開催概要】

日時：2023年5月12日(金)15:00～17:00

形式：ハイブリッド

(仙台メディアテーク7Fスタジオシアター)

参加人数：179名

①「土砂災害対策の現状と今後の課題」

板屋英治氏(国土交通省東北地方整備局河川部長)

②「個別要素法による土砂流動・

落石シミュレーションの不確実性の定量化」

森口周二氏(東北大学災害科学国際研究所准教授)

【第2回目開催概要】

日時：2023年7月28日(金)13:00～17:00

形式：ハイブリッド

((株)復建技術コンサルタント大会議室、

一般受講者は原則 オンライン)

参加人数：138名

①「地すべり地の動態観測への

データサイエンスの応用事例

ー状態空間モデルによる間隙水圧のベイズ推定ー」

荻野俊寛氏(秋田大学大学院理工学研究科准教授)

以下、2022年12月に発生した山形県鶴岡市西目地区における土砂災害に関する調査結果報告会として

②「被災地周辺の地質と風化状況」

山形大学 本山功・井村匠

③「地形復元から見た地形変化の影響」

山形大学 八木浩司、防災科学研究所 佐藤昌人・

山田隆二、奥山ボーリング 林一成・

ディーバック ラジュバート

④「水文解析から見た地下水変化予測」

水文企画 渡辺修

⑤「風化による土質劣化と土質特性」

国土防災技術 柴崎達也

⑥「初期救命活動」

消防研究センター 新井場公徳

⑦「西目地区地すべり対策について」

山形県、日本工営 工藤唯志

⑧「まとめと今後に向けて」

山形大学 八木浩司



▲久々の意見交換会

学会活動報告

2023年度 若手講習会

研修委員長 工藤 唯志

1. はじめに

研修委員会では、若手技術者をターゲットとして、2021年6月に発刊された「斜面防災危険度評価ブックー斜面と地すべりの読み解き方ー」を題材にした若手講習会を計3回(4月、7月、11月)実施しました。

東北支部の先輩方が長年にわたり取り組んできた研究成果が凝縮された同書の内容を、次世代の若手技術者に継承したい。また、コロナ禍で停滞していた支部活動を若手の活躍により活発化させ、今後の更なる発展を目指したいという目的で取り組みました。

2. 講習会の様子

講習会は、20～30代を中心に各回とも20名程度の小規模なスタイルで開催しました。講師の皆様にご協力いただき、受講者自身が手を動かす演習や受講者同士がコミュニケーションをとれるようなグループワークを多く取り入れることで、主体的に参加できるようなものとし、第1回は空中写真の実体視による地すべり地形判読、第2回はAHP法を用いた地すべり危険度

評価、第3回では数値地形情報を用いた立体微地形図の作成と判読について学びました。

3. おわりに

若手講習会を終えての率直な感想としては、こちらの予想以上に毎回盛況な講習会だったと感じています。また、業界には将来有望な若手技術者がたくさんおり、各々が技術に貪欲で横の繋がりを求めている方々も多いのではと感じましたので、研修委員会では今後も若手技術者が有意義に活動できる場を提供したいと考えております。



▲グループ発表の様子

最後に、講師を引き受けていただきました八木先生、池田様、林様、ならびに研修会場を提供いただきました(株)復建技術コンサルタント様やオブザーバの皆様におかれましては、多大なるご協力、ご支援を賜りましたことをここに報告するとともに、感謝申し上げます。

学会活動報告

2023年度 現地検討会「宮城県荒砥沢地すべり」

巡検委員長 熊井 直也

2023年度地すべり現地検討会を10月19日～20日に宮城県栗原市の荒砥沢地すべりで行いました。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、2類から5類に移行したことから、4年ぶりに宿泊を伴う検討会となりました。参加者は10月19日42名、10月20日36名でした。

荒砥沢地すべりは2008年に岩手・宮城内陸地震で発生した国内最大級の地すべりであり、地すべり活動による直接的な影響が小さい箇所については「対策は行わずに自然の復元に委ねる」という方針から、発生当時の現象が確認できる非常に貴重なサイトであり、学習・研修の場としての活用が期待されている地すべりです。

概略工程は以下の通りです。

- ・10月19日：栗駒山麓ジオパークビジターセンター及び荒砥沢地すべり見学
- ・10月20日：討論会

10月19日の現地見学は、栗駒山麓ジオパークビジターセンターからジオガイド2名を派遣していただき、ジオパークビジターセンター及び荒砥沢地すべりを見学しました。

＜栗駒山麓ジオパークビジターセンター＞

2008年岩手宮城内陸地震で発生した多数の山地災害の状況や、栗駒山麓で発生した自然災害の記録、地形・地質等の説明をいただき、400インチ2画面の超大型スクリーンによる迫力ある映像を鑑賞しました。

＜荒砥沢地すべり＞

まず初めに冠頭部から全景を確認しました。地すべり地内の残るリッジや陥没帯、植生の回復状況等を確認し、宮城北部森林管理署の細田総括治山技術官から発生当時の状況や対策工法（頭部排土工・鋼管杭工等）について説明をいただきました。次に地すべり地内へ車で移動し、約120mに及ぶ滑落崖（発生当時は約150mでしたが、排土工により約120mとなっております）や地質構造、湛水地、モニタリング施設等を見学しました。最後に藍染湖ふれあい公園で地すべり下方から全景を見学し、宿泊先であるハイルザーム栗駒に移動しました。

ホテルでは18:30～21:00過ぎまで交流会があり、活発な意見交換が行われました。



▲集合写真(荒砥沢地すべり地内)

10月20日は栗駒山麓ジオパークセンターの体育館で討論会を実施しております。討論会では栗駒山麓ジオパークセンターの佐藤英和さんから、「栗駒山麓崩壊地を地質遺産とした栗駒山麓ジオパークの取り組み」についてご講演をいただき、「荒砥沢地すべりの概要」を国土防災技術(株)の山科真一さんから説明を受けた後に、6班に分かれて次のテーマについて討論し、各班のまとめを5分程度で発表してもらいました。

- ①ジオパークと地すべり学会の関わりについて
- ②地震地すべりのモニタリング手法について
- ③ジオパークサイドからの質問について

各班からは、荒砥沢地すべりの地質遺産としての保全や活用方法、学会とジオパークとの連携等について様々な意見をいただきました。最後に東北森林管理局で実施している荒砥沢地すべりのモニタリング手法について国土防災技術(株)の西尾克人さんより報告していただき全日程を終了しました。

2024年度は日本地すべり学会の全国大会が宮城県で開催されます。現地見学会に荒砥沢地すべりを巡るコースを計画しておりますので、今回参加できなかった方、再度見学した方は迫力ある荒砥沢地すべりを見ていただき、今後の研究や業務に生かしていただければと考えております。参加をお待ちしております！

2023 年度東北支部役員・運営委員・アドバイザー（敬称略）

2023年5月15日現在

支 部 長	森口 周二（東北大学災害科学国際研究所准教授）	顧問	盛合 禧夫（東北工業大学名誉教授）
副支部長	高見 智之（国際航業㈱東北支社技術部長）		千葉 則行（東北工業大学名誉教授）
監 事	渋谷 保（日特建設㈱東北支店技術フェロー）		檜垣 大助（弘前大学名誉教授）
	橋本 修一（㈱東北開発コンサルタント専門役）		宮城 豊彦（東北学院大学名誉教授）
運営委員	梅村 順（日本大学工学部土木工学科専任講師）		八木 浩司（山形大学名誉教授）
	大月 義徳（東北大学大学院理学研究科助教）		井良沢道也（岩手大学名誉教授）
	鄒 青穎（弘前大学農学生命科学部地域環境工学科講師）		大河原正文（岩手大学理工学部教授）
	山川 優樹（東北大学大学院工学研究科教授）		
	荻野 俊寛（秋田大学大学院理工学研究科准教授）	アドバイザー	国土交通省東北地方整備局河川計画課課長
	本山 功（山形大学理学部地球科学分野教授）		国土交通省東北地方整備局新庄河川事務所所長
	三辻 和弥（山形大学工学部建築・デザイン学科教授）		農林水産省東北農政局農村振興部農村環境課地質官
	近藤 敏光（国際航業㈱東北統括部国土保全G担当部長）		林野庁東北森林管理局計画保全部治山課課長
	荻田 茂（奥山ボーリング(株)技術部長）		東日本高速道路(株)東北支社技術企画課課長
	武田 茂典（基礎地盤コンサルタンツ(株)東北支社技師長）		東日本旅客鉄道(株)仙台支社工事課課長
	伊藤 靖雄（大日本ダイヤコンサルタント(株)東北支社）		東北電力(株)再生エネルギーカンパニー水力部水力土木課長
	三嶋 昭二（応用地質(株)東北事務所防災技術部技術参与）		熊谷 茂一（(一社)斜面防災対策技術協会 東北副支部長）
	押見 和義（(株)復建技術コンサルタント技師長）		阿部 真郎（奥山ボーリング(株)顧問）
	渡辺 修（(同)水文企画代表）		三上登志男（(株)復建技術コンサルタント技師長）
	熊井 直也（国土防災技術(株)山形支店長）		濱崎 英作（(株)アドバンテクノロジー社長）
	工藤 唯志（日本工営(株)仙台支店国土保全部長）		山科 真一（国土防災技術(株)常任顧問）
	大村 泰（奥山ボーリング(株)技術部次長）		金子 和亮（日本工営(株)仙台支店次長）
			森 一司（(株)システムプランニング技術顧問）
			八鍬 健（(株)日さく仙台支店長）

幹事会

区 分	委 員 会	氏 名	所 属	名 称	実行内容
幹 事 長		瀬野 孝浩	(株)新東京ジオ・システム	事業企画	支部総会・シンポジウム、他学会・協会との交流活動についての企画・運営、斜面変動コロキウムの実行
副幹事長	事業企画	渡辺 修	(同)水文企画	巡検計画	地すべり現地検討会の企画・開催、災害時の調査団派遣検討及び調査報告書の作成
	巡検計画	熊井 直也	国土防災技術(株)	広 報	支部活動に関わる情報提供や広報活動、支部HP運営・管理、支部だよりの作成・配布、社会貢献・会勢拡大活動（アウトリーチ・会員数対策連絡会と連携）
	広 報	大村 泰	奥山ボーリング(株)	研 修	会員または一般向け技術研修会の企画・運営
	研 修	工藤 唯志	日本工営(株)		
幹 事	事業企画	穴戸 拓摩	川崎地質(株)		
		今井 雄輝	応用地質(株)		
		高橋 康平	国土防災技術(株)		
	巡検計画	石川 恵司	(株)日さく		
		細谷 健介	新和設計(株)		
		山本 佑介	(株)復建技術コンサルタント		
		小林 卓矢	大日本ダイヤコンサルタント(株)		
	広 報	石川 晴和	(株)アドバンテクノロジー		
		黒墨 秀行	(株)総合土木コンサルタンツ		
		池田 浩二	(株)東北開発コンサルタント		
	研 修	中臺 直之	(株)新東京ジオ・システム		
		小林基比古	日本工営(株)		
		鈴木 真悟	奥山ボーリング(株)		
	会計・事務局	大澤 宏明	(株)復建技術コンサルタント		

新任幹事の紹介

2023年度から東北支部幹事会に加わり活動して頂いている3名の幹事をご紹介します。

①所属 ②主な仕事の内容(役割) ③ひと言



小林 卓矢さん

- ①大日本ダイヤコンサルタント株式会社 東北支社技術第2部地質防災室
- ②ダム建設に係る地質調査、ダム貯水池地すべり地質調査
- ③この度幹事を拝命いたしました大日本ダイヤコンサルタント(株)の小林と申します。東北支部の皆様との交流を通して、多くのことを吸収したいと思います。皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



穴戸 拓磨さん

- ①川崎地質株式会社
- ②地すべり調査業務のボーリング調査や動態観測を主に担当しています。また、トンネルやダムの地質調査などにも携わっています。
- ③まだまだ勉強不足ではありますが、学会活動を通し知識・スキルを向上していきたいと思ひます。至らぬ点があるかと思ひますが、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



鈴木 真悟さん

- ①奥山ボーリング株式会社 技術部 技術課
- ②地すべりに関する調査、解析、設計業務を担当しております。今年の11月より東北支部の幹事を務めさせていただきます。
- ③東北支部での活動や来年の宮城大会に向け、微力ながら精一杯努めて参ります。至らぬ点もございますが、何卒よろしくお願い致します。

支部協賛会社(34社)

支部活動は、協賛いただいている各企業の協賛金と皆様のマンパワーにより支えられております。支部活動の拡大・活性化のために、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(一社)斜面防災対策技術協会 東北支部
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング 東北支社
(株)アドバンテクノロジー
応用地質(株) 東北事務所
奥山ボーリング(株)
川崎地質(株) 北日本支社
基礎地盤コンサルタンツ(株) 東北支社
(株)計測技研
国際航業(株) 東北支社
国土防災技術(株) 東北支社
(株)新東京ジオ・システム
新和設計(株)
(同)水文企画
(株)総合土木コンサルタンツ
(株)測商技研 秋田支店
(株)ダイヤコンサルタント 東北支社
(株)地質基礎

中央開発(株) 東北支店
(株)テクノ長谷
東光計測(株)
東邦技術(株)
(株)東北開発コンサルタント
東北ボーリング(株)
土地地質(株)
日栄地質測量設計(株)
(株)日さく 仙台支店
日鉄鉦コンサルタント(株) 東北支店
日特建設(株) 東北支店
日本基礎技術(株) 東北支店
日本工営(株) 仙台支店
(株)平野組
(株)復建技術コンサルタント
(株)北杜地質センター
ライト工業(株) 東北統括支店

編集後記

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことにより、今年は久しぶりにコロナ禍前のような支部活動を実施できました。特に、研修委員会の企画として温めていた若手技術者を対象とする講習会が大盛況に終わり、参加した方から『若手中心の活動もしていきたい』という声が上がったことも印象的で、若手技術者の方々が活動・活躍できる機会を今後も

設けて行きたいと感じました。

2024年度は研究発表会(宮城大会)が9月に仙台市で開催されます。現在、実行委員会および幹事会を中心に準備が進められております。若手講習会に参加された若手技術者をはじめ、皆様のご参加をお待ちすると共に、会員、協賛会社の皆様におかれましては、大会運営等へのご協力をお願い致します。

広報委員会

委員長 大村 泰(奥山ボーリング)
委員 黒墨秀行(総合土木コンサルタンツ)
池田浩二(東北開発コンサルタント)
石川晴和(アドバンテクノロジー)
事務局 大澤宏明(復建技術コンサルタント)